

## 大阪府立清水谷高等学校 第70回入学式式辞

280名の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

花びらの流れるなか、この佳き日に、清水谷高校へようこそいらっしゃいました。

今日までに既に皆さんは何日かこの学校で過ごされていますが、第一印象はいかがだったでしょうか。「うつくしい学校ですね」とよく声をかけられます。「うつくしい」という形容詞は、もともと「いつくしむ」という動詞から生まれています。「いつくしむ」とは大切に思って育てる、可愛がる、という意味です。校門から校舎や中庭までのアプローチの間に、この高校がどれだけ多くの人々に愛されているがわかります。先ほど入学許可をいたしました新入生のみなさんも、ご多用の中列席くださいました保護者のみなさんも、この高校をいつくしむ人々の仲間入りをしてくださいますようお願い申し上げます。

さて、みなさんが清水谷高校への進学を志した動機は、何でしょうか。この学校のどういうところに価値を見出されたのでしょうか。「うつくしさ」もその一つかもしれません。加えて、3年間の教育課程を踏んでいく最初の日当たって、本校の教育のめざす価値について、ここで是非みなさんに了解しておいてほしいことを話したいと思います。

少し難しい言葉を使いますが、「教育」にも、他のいろいろな物品同様、「交換価値」と「使用価値」と、2つの価値があります。

教育を受けることで、教育を受けない場合より多くの知識や技能（スキル）を誰もが獲得します。本校にも、校歌の1番にうたわれるとおり、「知識とわざ」が湧き出でています。学校教育を修めたあと、労働市場においては、それまで教育を受けてきた者どうしが「市場能力」を競い合って相対的な競争状態になります。つまり、受けてきた教育は、市場における「交換価値」を持つことになるわけです。そうした労働市場では、自分だけが高い教育を受け、他の者が低い次元にとどまることが、最も好都合となります。「交換価値」としての教育は、不平等や格差を「市場能力」という形で実体化させ、正当化します。

しかし、人間が商品化されない領域では、すなわち「交換価値」ではなく「使

用価値」の領域では、受けた教育がすべてポジティブな意味を持ちえます。広い公共的な領域でも、親しい者どうしの関係の中でも、もし自分だけが高度な教育を受けて、他の人たちが低い次元にとどまっていたとしたら、それは自分にとってもマイナスになるのです。自分だけが高度な知識や高度なスキルを身につけていても、誰にもわかってもらえず、つまらない会話に包囲されることになってしまいます。自分だけでなく他者にも十分に教育を受けてもらうことが必要だし有益だということになるのです。「使用価値」としての教育は、市民の活動や民主主義の質を向上させることで、不平等や格差を是正させる力にもなりえます。

ここは学校ですから、もちろん「知識と技能」を教えます。みなさんは、やがて自分で生活することを考えなければなりません。自活できているという自由と自負の感覚は、労働によってはじめて現実性を得ますが、働いて、よい仕事をして、認めてもらうためには、知識と技能が不可欠です。私たち教職員は、知識と技能を教えたくてウズウズしています。授業でも、部活動でも、一緒に学び、一緒に汗をかきながら、みなさんに生き抜くための知識と技能を伝えますから、意欲をもってぶつかってきてください。でも、私たち教職員が最も期待していることは、私たちが伝える知識や技術、この言葉や思いをみなさんが晴れやかに踏み越えていってくれることです。この入学式の式辞は、良い意味で裏切られることを期待しています。みなさんの「凌駕する力」を信じています。

ただ、学校は、知識と技能さえ磨けばそれでいい、という場ではありません。物事を自分にとっての意味だけでなく、同時に「みんなにとっての意味」として見る訓練の場でもあります。つまり、さきほど申したとおり、教育を「交換価値」にとどめるのではなく、「使用価値」として享受できる場としたいということです。そのためには、公共領域や親密圏を支えている「ルール」を尊重する感覚が必要です。ヘーゲルという哲学者は「自由になるためには不自由が必要だ」ということを教育の場で強調しました。自分のルールだけで生きようとする人、ルールを破ることを個性だとはきちがえている人に対して、清水谷高校は厳しく指導します。

性別や出身、貧富の差や障害のあるなしを問わないフェアなルール感覚についても、つまり「人権」についても、丹念に教えていきます。「知識と技能」に加えて、二つめのチカラは、この「ルール感覚」です。

そして三つめは、「**関係づくりの能力**」です。友だちや先生方との関係はもちろん、PTAや地域の方々とも出会う機会をたくさん盛り込んだ活動を教育課程のなかに組み入れています。さまざまな立場の人、年齢や世代の違う人たちから学ぶことはいっぱいあります。まず、毎日の挨拶からはじめて、自分と考えや感じ方の違う人たちと**いい関係**が**つくれる**よう、そして、自分の知りたいことをきちんと教えてもらえるよう、このチカラを養ってください。

「知識と技能」「ルール感覚」「**関係づくりの能力**」この3つのチカラを基礎に、めざすところに向けて成長しよう、背伸びしようという意欲をもつ人を清水谷高校は全力で応援します。みなさんをしっかり後押しして、3年間で成功体験を重ね、自信をもってもらうために今日から本校の教育活動は始まります。この入学を機に、みなさんもちよっと背伸びをしてオトナへの長い階段を歩き始めてください。

保護者のみなさま方に置かれましても、今日こうして高校の門をくぐられたお子様に対して、やはりご自分の背伸びの経験を語りかけていただきたいと存じます。私たち教職員も、子どもたちから決して逃げない姿勢、そして生徒たちが安心して背伸びできる環境を堅持する姿勢で向き合っていきます。保護者の方々や地域のみなさんと、「**逃げない大人のチーム**」、「**オトナであることを存分に愉しめるチーム**」をつくって将来を担う世代を育てたいと存じます。

お子様はこれから自立の道を歩むための学習をすることとなります。時には厳しい指導もあるかもしれませんが、お子様の安全・安心を守り、自信を育ててまいりたいと思いますので、ご協力を賜りたく思います。

最後になりましたが、本日は、本校 PTA 会長 井筒 記美恵 様を始め多数の方々にご臨席を賜りました。平素よりこの清水谷高校に渝わらぬご理解とご支援を注いでいただき、本日また錦上華を添えていただきました。心より感謝申し上げます、式辞の結びといたします。

平成二十七年四月八日

大阪府立清水谷高等学校長 島崎 英夫